

2024 年 10 月 13 日（日）第二礼拝

「神の国とその義とをまず第一に求めなさい」 マタイ 6 章 25～34 節

イエス様は私たちに、「何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。…天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて与えられます。（マタイ 6：31～33）」と言われました。

第一番目、心配するのはやめなさい。心配はイエス様の御言葉を信じないようにするサタンの働きです。心配とは「心を引き裂く、心をバラバラにする」ということです。英語では worry と言い、「噛みつく、首を噛んで窒息させる」という意味があります。動物が他の動物から首を噛まれるなら、呼吸ができなくなり無気力になります。同様に、心配は精神的にも肉体的にも影響が出てしまいます。霊的に無気力になり、免疫が落ちて精神疾患や癌、心臓病、高血圧などあらゆる病気になってしまいます。更に、心配は伝染力が強く、即座に広がってしまいます。中にはこの世の情勢について過剰に心配し、恐れてしまう方もおられます。しかし、この世にある全てのことは神様の許可無しには起こりません。神様は全ての主権者です。ですから、私たちは心配する必要はないのです。

第二番目、神様は備え主です。全ての主権者であり、導き手である神様が私たちの必要を全て満たし、備えてくださいます。神様は空の鳥を養い、野のゆりや明日は炉に投げ込まれる野の草さえ着飾り、装ってくださるのです。それらよりも私たちははるかに神様から愛され、大切にされています。ですから「心配するのはやめなさい」と言われているのです。

ヤコブの息子ヨセフの時代、エジプトのパロは豊作の七年と飢饉の七年の夢を見ました。それを解き明かしたヨセフは、豊作の七年間の後に来る世界的な七年間の飢饉に備えて食料を備蓄しました。この終わりの時代にも神様の召しを受けてヨセフのような食糧庫をつくる働きをされている方がおられます。このように神様は私たちの現在や将来の必要を全てご存知であり、そのために人や物を動かし、備えてくださるお方なのです。

第三番目、神の国とその義とを求めなさい。「神の国とその義を求める」とは、神様ご自身を求めること、神様との親しい関係を求めるということです。つまり、それはこの世の心配から私たちが解放され、神様の主権を信じ、神様に従順し、神の国の統治を受け入れることであります。現在、ノアやロトの時代のように不法がはびこり、愛が冷たくなっている時代です。世界は無秩序になり、聖書を正しく語る牧師が罷免されたり、逮捕に至り、聖書は破り捨てられ、同性愛が受け入れられる社会です。このような時代にあっても私たちは神様だけを求め、神様や隣人を愛し、御言葉に従っていきましょう。そうするなら神様は全ての必要を満たしてくださると約束してくださっています。これが神様の義です。ですから、明日の心配は不要です。明日のことは明日が心配します。労苦はその日その日に十分にあります。ただ私たちは日々主と親しく歩み、御言葉に信頼し従順していきましょう。アーメン！